第５学年１組　社会科「工業生産と工業地域」

尾道発！　ぶちすごい！　いか天をつくる工場

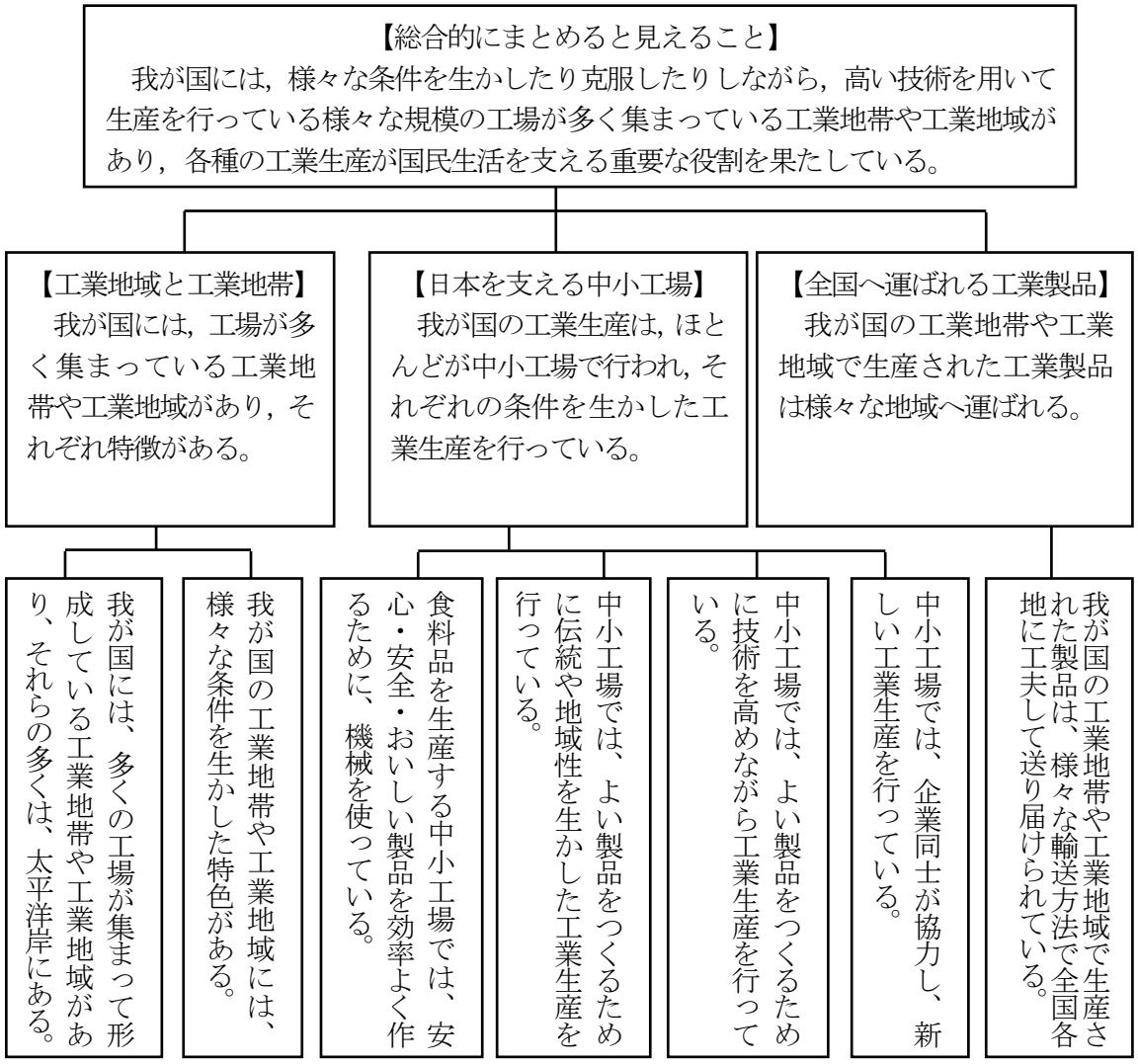
指導者　　才谷　瑛一

1　単元設定の理由

○　本小単元は，小学校学習指導要領第５学年の目標と内容に基づき設定した。学習指導要領には，以下のように示されている。

（3）我が国の工業生産について，次のことを調査したり地図や地球儀，資料などを活用したりして調べ，それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。
ア　様々な工業製品が国民生活を支えていること。
イ　我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など
ウ　工業生産に従事している人々の工夫や努力，工業生産を支える貿易や運輸などの働き

内容構造図



○単元観

本単元「工業生産と工業地域」は，大単元「わたしたちの生活と工業生産」を構成する３つの小単元のうちの１つで，我が国の工業生産と工業地域の様子を調べることを通して，工業地域の分布，工業を支える運輸の働き，各種の工業生産が地域性や伝統を生かしたり，すぐれた技術を開発・伝承したりしながら営まれて国民生活を支えていることが分かるようにすることをねらいとしている。

我が国の工業地域や工業地帯は太平洋岸を中心に各地域で発達し，様々な工業製品を生産し，現在では日本を支える重要な産業となっている。国内で生産された工業製品は国内のみならず，海外にも輸送され，世界のいたるところで使用されている。日本の「ものづくり」が世界に誇れる産業になったのは，地域性や伝統を生かしたり，優れた技術を開発・伝承したりしながら課題を克服し，時代を切り開く工業生産を行ってきたためである。また，時代の変化に対応しながら課題を克服し，私たちの生活を支えてきた日本の「ものづくり」の精神は，私たちの優れた国民性の一つであると考える。

本単元で扱う尾道のいか天は，中小工場５社で全国シェア７割を誇る地元の食料品工業である。その中の砂田食品の作るいか天はアンテナショップ「ひろしま夢ぷらざ」の売上ランキングにおいて，２年間不動の１位である。砂田食品の創業当時は，手作りでいか天を製造する個人商店であった。創業から 52 年が経ち，工場は機械化されながらも職人の技を守り抜いてきた。常に「安心・安全・おいしい」を目指した製品開発を繰り返し，現在では他の企業と協力した製品を開発し，販路の拡大や知名度の向上といった努力をしている。原材料は江戸時代に栄えた北前船がもたらした北海道松前産のするめいかにこだわり，職人の技により，限界まで薄く伸ばし，日本一やわらかいいか天となっている。また，近年，保存の技術の向上や交通網の発達により，長距離への輸送が可能となり，砂田食品の製品が全国へ輸送されている。

これらのことから砂田食品等の工業生産の様子を具体的に調べることは，我が国の各種の工業生産が様々な規模の工場でそれぞれの条件を生かしながら時代に合わせた生産の工夫や努力をしていることを具体的につかむことができると考え，本単元を設定した。

○児童観

本学級の児童（26 名　男子 13 名，女子 13 名）は，社会科への興味・関心が高い児童，低い児童と様々である。児童アンケートでは，「社会科は日本の他の地域のことを知ることができるから好き」と答える児童や「いろいろな名前がでてきて分かりにくいからきらい」と答える児童がいる。４月に行った NRT の結果は以下の通りである。

〔観点別正答率〕

観　　点	学級	全国
社会的な思考・判断・表現	69.8%	55.2%
観察・資料活用の技能	79.5%	66.6%
社会的事象についての知識・理解	80.5%	66.9%

消防署に関する問題では，「消防署の人が道路のこみ方を調べているのはなぜか」という問題に対して「道路の混雑を防ぐため」と解答した児童が 65%（17／26）いた。

これらのことから，社会的事象についての知識・理解の正答率は高いが，社会的な思考・判断・表現の正答率が低いことが分かる。社会的事象の意味を考える力に課題がある。

また，27%（７／26）の児童が社会科を不得意としている。

○指導観

指導に当たっては，地図，統計，写真などの資料を活用して調べるだけでなく，実際に工場を見学したり，工場で働く人にインタビューを行ったりして，児童が直接見たり聞いたりする活動を設定し，興味を持って学習できるように単元を構成する。

まず地図や統計資料を通して，我が国の工業地域の分布の様子や特徴をとらえさせる。そして，前単元で扱ったマツダは瀬戸内工業地域の中にあり，重化学工業を中心に発展している工業地域であることをつかませる。次に大工場と中小工場の数を比較し，中小工場が多いことに気付かせ，中小工場に関心をもたせる。そして，北陸工業地域の地域性や伝統を生かした工業生産の様子や京浜工業地帯の世界最先端の技術が集まる工業生産の様子を調べ，工業地域によって生産している製品や特色が異なることをつかませる。次に自分たちの住む尾道の工場で生産されたいか天の全国シェアが７割もあることに気付かせ，尾道の小さな工場であるのに，なぜ生産が多いのか，興味を持たせる。

その後，実際に工場見学に行き，機械によるライン製造やいかを焼いて伸ばす職人の技術，天候によって衣の混ぜ方を調節する職人の技術を見学し，職人の技術の高さに触れさせる。

各種の資料を活用して読み取ったり，話し合ったりする際には，これまで学習した日本の特色ある工業生産の様子といか天工場で見学したことを関連させることで，資料の内容の全体的な傾向をとらえさせたり，実感を持って話し合わせたりする。小さな工場でも全国で売れるのはなぜかという視点を持って見学したり，資料を読み取ったりすることで，児童は工業生産が様々な条件を生かして行われていることをとらえやすくなると考える。

単元のまとめでは，これまで学習したことを一人一人新聞にまとめさせることを通して，我が国の工業地域の分布や特色，運輸の働きなど，学習したことや考えたことを表現させる。また，学級でも大きな白地図を作成することで，学習の達成感を全員で味わわせたい。

2　単元の目標

○　我が国の工業生産と工業地域の様子に関心をもち，進んで調べることを通して，各種の工業生産や工業地域の分布，工業を支える運輸などの働き，各種の工業生産がすぐれた技術を開発・継承しながら営まれて国民生活を支えていることを理解する。【理解・態度】

○　我が国の工業生産や工業地域の様子から学習問題を見いだし，地図，統計，写真などの資料を活用して調べたことを白地図や作品にまとめるとともに，我が国の工業生産の現状や特色について考えたことを適切に表現する。【能力】

3　単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の評価規準	○我が国の工業生産や工業地域の様子に関心をもち，主な工業生産の種類，工業地域の分布や工業を支える運輸などの働きについて進んで調べようとしている。	○我が国の工業生産や工業地域の様子について，学習問題や学習計画を考え，表現するとともに，その特色や現状を国民生活と関連付けて考え，我が国の工業生産がすぐれた技術をもって営まれ，国民生活を支える重要な役割を果たしている事を表現している。	○地図，統計，写真などの資料を活用して必要な情報を集め，我が国の工業生産や工業地域の特色や現状を読み取ってまとめている。	○我が国の各種の工業生産や工業地域の分布，工業生産を支える運輸などの働き，各種の工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

4　指導計画（全７時間）

次	学習活動	めざす児童の姿	評価規準（評価方法）
一	地図やグラフから我が国全体の工場の広がり方やその特色を予想し，学習問題を設定する。（1）	**日本には工場の集まる工業地域があり，太平洋沿いを中心に広がっている。 瀬戸内工業地域以外の工業地域にはどのような特色があるのだろう？**	○　我が国の工業生産の種類や工業地域の広がりに関心をもち，学習問題を考え，表現している。 【思・判・表】（ノート）
	日本の工業地帯や工業地域は，どのような特色があるのだろう？		
	写真やグラフなどから日本の様々な工業地域の特色について調べる。　（1）	**北陸工業地域には，伝統や地域性を生かした工場がある。京浜工業地帯には，高い技術を生かした金属加工がさかんである。日本の 99%以上が中小工場でそれぞれの工業地域を支えている。**	○　資料から我が国の工業地域には，機械，金属，化学，繊維，食料品などの各種の工業製品があることや 99%以上が中小工場であることを読み取り，まとめている。　【技能】（ノート）
二	全国シェア７割！小さな工場なのに，なぜ尾道のいか天は全国で売れるのだろう？		
	尾道のいか天工場を見学する。（1）	**「安心・安全・おいしい」製品をつくるために，大きな工場と同じような工夫や小さな工場でしかできないような工夫をしながら製品を製造している。**	○　学習課題を解決するために，工場の様子に関心をもち，進んで調べている。 【関・意・態】（メモ，観察）
	年表や写真などからいか天工場の歴史，製造の様子を読み取ってまとめる（1）	**いか天の製造は，他の工場と同じように地域を大切にし，昔からの技術を大切にし，発展させながら製造している。**	○　工場の歴史や原材料の仕入れ先，製造の仕方について，資料を活用して調べ，その特色や歴史的背景を読み取ってまとめている。　【技能】（ノート）
	地図などから生産された製品の輸送経路を知る。　（1）	**工業製品は，交通網の発達によりトラックや鉄道，船舶，航空など，条件に合わせていろいろな方法で全国各地に輸送されている。**	○　我が国の工業生産や国民生活が交通網の拡充や物流の仕組みによって支えられていることを理解している。【知理】（ノート）
	新製品のパッケージや製品開発の様子について話し合う。（1） （本時６／７）	**工業生産は，こだわりを持って行い，他の企業と協力しながら，知名度を上げたり，よりよい製品を作ったりしながら行われている。**	○　砂田食品の製品の変化を通して，知名度を上げるためやよりよい製品を開発するために企業間で協力しながら工業生産を行っていることを考えて表現している。【思・判・表】（ノート）
三	各種の工業生産と工業地域の分布などについてまとめる。（1）	**日本には，様々な条件を生かしながら工業生産を行う大工場や中小工場があり，工業地帯，工業地域として太平洋沿いに集まっている。工場で作られたものは様々な方法で私たちのところまで運ばれている。**	○　我が国の工業生産と工業地域の分布について，様々な条件を生かした工業生産の様子についてまとめながら表現している。 【思・判・表】（新聞）

5　本時の展開

(1) 本時の目標

○　砂田食品の製品の変化を通して，販路を拡大するためや知名度を上げるために企業間で協力しながら工業生産を行っていることを考えて表現することができる。

(2) 観点別評価規準

○　砂田食品の製品の変化を通して，販路を拡大するためや知名度を上げるために企業間で協力しながら工業生産を行っていることを考えて表現している。　【思考・判断・表現】

(3) 準備物

実物資料「いか天（砂田食品）」「いか天（がんこやオリジナルブランド）」
統計資料「いか天の売れ行き」
文書資料「いか天を購入した人の声」

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（○）と支援（◆）	評価規準（評価方法）
1　これまで学習したことを振り返る。	○　これまで学習した砂田食品の工夫や努力について振り返り，よい製品を製造するために，伝統や地域性，高い技術力を生かしたり，交通網が発達したりしたことにより，全国でたくさん売れるようになったことをおさえる。	
2　いか天の製品パッケージを比較して，本時の課題を確認する。	○　２つのいか天の製品パッケージを見せ，片方の製品には砂田食品と書かれていないことから，他の企業と関連して製品を作っていることに気付かせる。 ○　２種類の製品パッケージをグループごとに配って話し合わせることで，製品ラベルの違いに気付かせる。 ○他の企業と関連して製品を作っても利益はほとんどないことを知らせる。	
なぜ砂田食品は他の企業と協力していか天を生産するのだろう。		
3　砂田食品が他の企業から注文を受けた製品を作ったり，協力して製品を作ったりしていることを知る。	○　近年，しょうゆを作る企業やソースを作る企業，健康食品を売る企業などと協力して製品を開発し，生産を行っていることを教える。 ○　写真を見せることで，どんな企業でどんな製品を作っているかイメージしやすくする。 ◆　砂田食品や他の企業，消費者の関係を示	

	したワークシートを配付する。	
4　砂田食品が他の企業と協力する理由について話し合う。	○　「砂田食品」,「他企業」,「消費者」のそれぞれの視点に立たせて考えさせることで理由付けしやすくする。 ○　「砂田食品」,「他企業」,「消費者」などの相関関係を板書し，視覚的にとらえやすくする。 ○　「販路拡大」「知名度向上」「こだわり」をキーワードに話合いを進めていく。 ○　開発には，時間と手間がかかるのに，なぜ開発を試みるのか問うことで，企業間連携の意味について考えさせる。 ○　いか天の工場は他にもあるのに，なぜ砂田食品なのかを問うことで，砂田食品のこだわりに気付かせる。 ○　食品メーカーや衣料品メーカー，機械メーカーなどの企業間連携によって生まれた製品の写真を見せ，話し合った内容を確かめる。	
5　まとめをする。		○砂田食品の製品の変化を通して，販路を拡大するためや知名度を上げるために企業間で協力しながら工業生産を行っていることを考えて表現している。 【思・判・表】 （ノート）
砂田食品が，時間と手間がかかっても，他の企業と協力して新製品を開発するのは，多くの消費者にいか天を知ってもらいたいから。また，協力するどちらの企業も生産を増やしたり知名度を高めたりしてメリットがあることがわかった。こだわりを持って工業生産を行うことで，他の企業に認められ，新製品を開発するチャンスが生まれることがわかった。		
6　砂田食品のこれからの思いを想像して書く。 （評価問題）	○砂田食品で働く人の写真と吹き出しを用意し，本時で学習したことをもとにして工業に携わる人の気持ちを書かせる。	